

ガンコ親父の

地球温暖化の影響だろう。この夏、滝のような雨のせいで、多くのアリ仲間が流され、命を亡くしてしまっていた。アリの松次郎は走るのが早かったので、間一髪で激流から逃れることができていたのだ。

アリたちは、洪水後すぐに生活再建のために懸命に働いた。アリの松次郎は亡くなった親戚の子供たちを引き取っていたので、特に多くの食料が必要になっていた。食料が採れなくなる長い冬を想うとおちおち遊んでなんかおれなかったのだ。やがて収穫の秋。列を作って懸命に食料を運ぶアリたちを見て、キリギリスは嘆いた。「みんな働いてばかりやな。もっと楽しまなアカン。一生はそれほど長くないんやで。このままじゃ過労死するで」と首をひねった。

働き方改革もあり、働きすぎに警告さえ出ている世の中や。コンビニの二十四時間営業も問題になっているし、と前置きした後、「あんたらも今の時流から大きく外れてますわ。やっぱりしっかり遊ぶことが一番」と、キリギリスは言った。

キリギリスは毎日毎日、音楽を楽しんだ。「ほんまに楽しい時期やわ。食料は野山に豊富に転がってるし、あぐせく働くことも要らんし」とアリたちに言った。そして「君たちは屋外で働きすぎとるやろ、日焼けして真っ黒やないの。そりゃ、美容・健康に悪いわ。紫外線は怖いんやから」と言つて、自慢の緑色の羽を広げた。

ところが、世の中、そうは問屋が卸さない。その年は急に、まれに見る強い北風と大雪に見舞われた。野原の全ての食料はあっという間に採れなくなってしまうた。食料を備蓄してなかったキリギリスは「えっ、こんなのあり?」と驚いたが、後の祭りです。さっそく食べ物に困ってしまった。

腹ペコのキリギリスは、プライドを捨て、食べ物を恵んでもらおうと意を決した。しかしどのアリの家を訪ねても余分な食料はないと冷たく突っぱねられた。「遊んでばかりいたから、バチが当たったんじや」といった声も聞こえる。キリギリスの細い手足は凍傷になりかけていた。凍えて意識が遠くなりそうなか、最後の一軒にたどり着いたのがアリの松次郎の家だった。

「もう命ギリギリすよ」とか細い声のキリギリスをアリの松次郎は中に招いた。「丁度よかった。いとこの子供たちがクリスマススの歌を聞きたがつていたんだ。歌ってくれるかい? その前に体も冷えてそうだし、これで温まってみるか」と、『しまっちゅ伝蔵』のお湯割を渡した。キリギリスは生き返った。「こんなのアリ? 温かすぎやわ」と感謝してアリの松次郎に深々と頭を下げた。

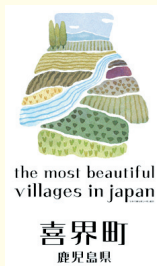
「まあ、飯でも食っていけよ。俺はあんたが毎晩、一生懸命に歌や演奏の練習をしていたのを知っているんだ。俺には絶対にできることじゃないし、感心していたんだ」と、アリの松次郎もお湯割のカップを飲み干した。誰だって頑張っていないやつなんかいいない。アリの松次郎の相手を想う心と美味しい一杯。そして歌声。

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



900ml (25度)



1800ml (25度)



1800ml (25度)

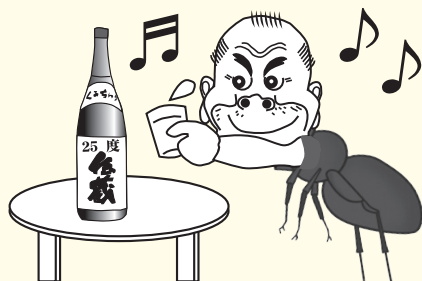
昔ながらの手造り こだわりの焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

常圧蒸留



奄美黒糖焼酎



<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

「こんなのアリ」に乾杯!!